



「荅北中（荅北町）大好きです」と自信と誇りを持って言える生徒

「卒業おめでとう」です。

三月八日（日）に多くのご来賓の皆様にご臨席いただき、五十五名の卒業生の卒業証書授与式を開催いたします。

今年度の卒業生は、生徒会テーマ「つなぐ〜one heart〜」のもと、これまでの伝統を大切にしながらも、新たな工夫や挑戦を重ね、学習や部活動、学校行事など、あらゆる場面で一生懸命に取り組んできました。その姿は大変頼もしく、本校のリーダーにふさわしいものでした。

特に、郡市音楽会の出場権をかけた合唱コンクールでは、生徒たちの本気度がひしひしと伝わってきました。

練習では、うまくいった日もあれば、声がそろわず悔しい思いをした日もあったことと思います。しかし、その積み重ねの中で、心を一つにした素晴らしい合唱を響かせてくれました。学級が一つにまとまることの素晴らしさや、仲間と力を合わせることの尊さを、後輩たちにその姿で示してくれました。

卒業生は、これからそれぞれ新しい道へと進みます。不安もあることと思いますが、この三年間で培った荅北スピリットを大切に、さまざまな困難を乗り越えてほしいと願っています。

日曜日の卒業証書授与式では、卒業生代表の答辞と卒業生の卒業の歌がとてもしみじみです。



第3学年 修了式



卒業証書授与式練習

受験に向けた面接練習を通して感じたこと 3年生 本巢 優成さん

三月八日、僕たちは中学校を卒業する。これからはふるさとを離れ、夢に向かって自分の道を歩いて行くことになる。僕の夢は船員になることだ。船員という仕事に興味を持ったのは、憧れである父の影響だ。父は船の司厨員として料理を担当している。

長い航海に出ることも多い。父から航海中の厳しさや船員という仕事の素晴らしさを聞く中で、この仕事に強い憧れを持つようになった。そして、家族のために仕事を頑張る父を、私は尊敬している。父はいつも「どんな仕事でも、仲間感謝し、責任感を持つことが大事」と言う。その言葉は、私の心に強く残っている。

中学校の一番の思い出は、合唱コンクールの指揮者を務めたことだ。最初は練習にも真剣に取り組めず、みんなの足を引っ張っていた。でも指揮者に選ばれ、「責任を持ってやり切ろう」と決めた。本番が近づくにつれて、練習も真剣に、集中して取り組んだ。でも、指揮がうまく合わず、反省ばかりだった。そんな時、クラスのみんなが優しく声をかけてくれた。また、一緒に練習してくれた伴奏者や、演奏中に指揮のタイミングを教えてくれた友達など、周りの力があって救われたように思った。そして、コンクール当日、緊張で押しつぶされそうだった。本番でも、指揮がずれそうになったが、みんなの目標だった「最優秀賞」を取ることができた。嬉しさと同時に、周りのみんなへの感謝でいっぱいだった。責任を持って行動し、周りに感謝することが大事だと、学校生活の中でも実感した。

受験を終え、無事に船員の資格が取れる学校に合格することができた。責任感のある船員になって、両親を楽にさせ、恩返しをしたいと思っている。父の背中を目標に、夢を実現し、父を超えるような人間になっていきたいと思う。

